

遠賀川がもたらす果実

- 水辺館の人づくり -

直方市長 壬生隆明

私たちがとって遠賀川はなくてはならない川であり、故郷そのものの川です。この街に暮らした人々は、その姿を記憶の底に刻み付け、忘れることがありません。昔々、学校の社会科の教科書に「遠賀川式土器」のことが書いてあったことを昨日のように思い出します。この川が長い歴史の時間の流れの中で、くつきりとその姿をとどめてくれたことを、とても誇らしく思いました。この川の傍にいて、この川と暮らすことは、私にとって晴れがましいデビューのようなものでした。

この川は、多くの恵みをもたらしてきました。直方市史には、この川の姿を次のように記しています。「かつて炭鉱の全盛時代の筑豊の地図を一見すれば明らかのように、筑豊の炭山は、遠賀川水系の本支流の流域にくまなく分布している。遠賀川を大樹にたとえれば、炭鉱は、幹をはじめ枝もたわむほどに実った果実といえる。」(直方市史・補巻・石炭鉱業編308頁)。大樹としての遠賀川とその果実という表現は、私にとって新鮮で象徴的でした。この川が母

なる川である所以を見事に捉えたものでした。

現在、幹も枝もたわむほどの炭山という果実は失われました。しかし、遠賀川の大樹は、かつての炭鉱とは違う果実を育んでいます。それは、遠賀川を舞台にした人づくりです。この活動の中心となっているのが平成8年に発足した「直方川づくり交流会」であり、平成15年に設立された「NPO法人直方川づくりの会」です。会では、「川づくりは人づくり 人づくりはまちづくり」をテーマに遠賀川での活動を展開されています。

会の活動拠点は、平成16年に国土交通省によって建設された「遠賀川水辺館」です。水辺館は、遠賀川と彦山川に挟まれた中之島にあり、春は桜とチューリップの花々によって彩られます。水辺館では体験学習や講演会等が開催され、「人づくり」への豊かな実践が積極的に展開されています。

私は、3年前に初めて水辺館を訪れ、ここで学ぶ子どもたちの発表を聞き、大きな感動を覚えました。ここで学ぶ子どもたちに学校の垣根はは3人の子どもたちが参加しました。この世界水フォーラムに日本から参加している子どもたちは、水辺館の子どもたちだけです。日本から唯一、水辺館の子どもたちが毎回参加していることは素晴らしいことです。こうした取り組みをとおして、水辺館で学んでいる子どもたちは、英語で活動内容を報告し、世界中の子どもたちと交流し、国際的な会議でも物怖じすることなく自らをアピールできる若者として成長しています。まさに遠賀川から世界へと羽ばたいています。今回は、西アフリカのセネガルで開催されます。

ところで、今年のブラジル大会への参加は、多くの市民の皆さまと企業の方々によって支えられて実現しました。この取り組みは、これまでにない画期的なことでした。こうした取り組みによって水辺館の人づくりの活動が、この街全体の取り組みへと発展していくことをこちらから願っています。

このように遠賀川という大樹は、今なお滔々と流れ、人づくりという新たな果実を育んでいます。遠賀川から世界へ翔けていく子どもたちの



遠賀川水辺館の外観

ありません。川や水や生物や環境や自然に興味を持った子どもたちであれば、誰でも参加することが出来ます。水辺館で学ぶ子どもたちは、それぞれ自分で、テーマを決めて学習します。学校とは一味も二味も異なる学びと育ちの世界がここにはあります。ここに集う子どもたちは、年上の子が年下の子どもとの世話をし、先輩と後輩が交流し、支え合います。

姿こそ、この街の未来を映し出しています。

遠賀川の恵みは、その悠久の流れとともに永遠なのです。



カヌー教室の様子



第8回世界水フォーラム報告会

ここで学ぶ子どもたちの姿に、この街の未来が見えてきます。そして、子どもたちの学習の集大成は、世界水フォーラムへの参加です。世界水フォーラムは、深刻化する世界の水問題を解決するために市民、行政、学識者が集まり、3年に一度開催される水分野の世界最大の国際会議です。1997年に第1回大会がモロッコ(マラムシユ)で開催され、以後オランダ(2000年・ハーグ)、日本(2003年・京都)、メキシコ(2006年・メキシコシティ)、トルコ(2009年・イスタンブール)、フランス(2012年・マルセイユ)、韓国(2015年・テグ)で開催され、今年(2018年)はブラジル(ブラジリア)で開催されました。また、日本で開催された世界水フォーラムから、次世代を担う世界の子どもたちも参加するようになり、このときから水辺館で学んでいる子どもたちも世界水フォーラムに参加するようになりました。日本大会には1人、メキシコ大会には2人、トルコ大会には3人、フランス大会には1人、韓国大会には6人の子どもが参加し、今年のブラジル大会に

